

# 地元上場企業ゲンキーを脅かす!

## 大手ドラッグストア県内進出相次ぐ! 今後、巨大再編時代を迎え寡占化が進む。

街中に右を見ても左を見てもドラッグストア。何時の間にか普段の暮らしに欠かせない存在となり、わずか人口78万人の9市8町に139店舗。「ゲンキー」と「クスリのアオキ」の2大勢力に大手ドラッグストアが次々と参戦し、陣取り、顧客獲得合戦が激化! 人口5千人に1店舗時代に突入し、今後は系列化が進み、再編と淘汰を余儀なくされる。

(文責:草の由紀)

### 食品に注力するゲンキー

### 調剤薬局強化のアオキ

唯一、福井県に本社を置くドラッグストア「ゲンキー」を運営する「Genky Drug Stores株式会社」。

2017年にはFOD&D RUGとして新たに生鮮食品の取り扱いを始め、300坪のタイプも店舗展開。今年10月

現在、261店舗。福井県65、岐阜県115、石川県20、愛知県61店舗ある。

福井県シェア1位を維持しながら、今後3年間でゲンキ

ーが注力している生鮮食品を拡充し、石川に76店舗、愛知に92店舗を集中出店しシェアを高め、4県以外にも20店舗の出店を予定。東証1部上場

のドラッグ各社の出店が相次ぐ中で石川、岐阜の両県で、シェア1位を狙うというが、そう簡単なことではない。

売上高構成比は食品61と圧倒的に高く、化粧品13、医薬品10、雑貨14、他2の割合。今年8月、岐阜県に業界初となるドライ・チルド・プロセスセンター「中部RPC」



「ゲンキー」今年8月岐阜県に  
業界初となるドライ・チルド・プロセスセンター「中部RPDC」

を開始(投資総額50億円、延床面積13000坪)。順次、外部倉庫をすべて解約して物流拠点を集約し、物流コストを下げ、自社運営のプロセスセンターによってアウトバックしていた生鮮食品の内製化、

収益性を改善させる。

2011年東京証券取引所2部から1部上場。2017年12月株式移転により持株会社としてGenky Drugs Store株式会社を設立。ゲンキー株式会社に代わり東京証券取引所1部に上場。本年6月期の連結業績は売上高が前期比9・5%増の1038億円、営業利益は2・0%減の40億円。『近所で生活費が節約できるお店』のコンセプトから外れることなく、2022年6月期末までの3年間で230店舗を出店し、463店舗、売上高1500億円を目指すという。

一方、石川県白山市に本社を置く「株式会社クスリのアオキHD」。石川県を中心に中部・北関東にチェーン展開する北陸最大手のドラッグストアだ。明治2年薬種商として創業し、薬局の経営からドラッグストアへ転換。1986年金沢市に「クスリのアオキ」

1号店をオープン。1997年業界1位のツルハHD、2003年イオン(株)と業務・資本提携を結ぶ。

福井県の1号店は1997年、福井市若杉に出店し、現在県内47店舗。全国18府県で店舗展開しており、本年5月期でグループ店舗数はドラッグストア535店舗(内調剤薬局併設239店舗)、調剤専門薬局6店舗の合計541店。関東や東海など大都市圏の郊外を中心に店舗網を広げシェアを伸ばし、今期末の店舗数は628店に増える見通し。

本年5月期決算、売上高2508億8500万円、前年同期比13・4%増。2020年5月期の連結業績を売上高前期比20%増の3000億円に伸ばす予想を発表した。新店投資額は2割増で過去最大規模の180億円を計画。関東や東海、近畿などに88店舗など新規出店を加速し、存在感を高める。

処方薬を販売する調剤薬局の併設店はアオキの強みの一つだが、最近では調剤師の確保が難しく、アオキの店舗に占める調剤併設率は45%弱にとどまる。今期は50店の併設薬局を設け、さらに接客や売り場チェックなどの人材教育も徹底し、店舗運営力の向上に引き続き取り組む。

エリア別売上高は、北陸156億円、信越375億円、関東東北499億円、東海近畿478億円。売上品別では、ヘルス301億円、ビューティー434億円、ライフ1543億円、調剤231億円。

今後、資本・業務提携を結び5%の株を保有するツルハHDの傘下となる可能性も考えられる。ツルハHDは北海道に本社を構え、ハーティールオンツ(広島市)、レディ薬局(愛媛県)、杏林堂薬局(浜松市)を連結子会社化。店舗数2082店、売上高7820億円の業界トップ。

## Genky DrugStores株式会社

本店 福井県坂井市丸岡町

代表取締役社長 藤永賢一

東証1部上場日	2017年12月21日	
	2019年6月期	2018年6月期
売上高	103,897百万円	94,869百万円
営業利益	4,046百万円	4,128百万円
当期純利益	2,694百万円	3,118百万円
資本金	1,000百万円	
11月20日株価	2,523円	
10月25日時価総額	35,985百万円	
発行済み株式総数	15,478,600株	
1株当たり当期純利益	174円	206円
売上高経常利益率	3.9%	4.4%
有利子負債	21,605百万円	
純資産額	25,309百万円	23,805百万円
1店舗平均売上高	398百万円	
正社員1人当たり売上高	128百万円	
正社員	810名	
パート・アルバイト	4055名	

【株主】フジナガイインターナショナルキャピタルズ(有) 33.8%、(株)エルローズ 5.1%、BBHフィデリティロープライズドストックF4.7%、自社グループ従業員持株会3.4%、BBHフィデリティイントリンシックオポチュニティズ2.5%、志野文哉2.3%、藤永賢一2.3%、自社グループ取引先持株会2.0%、SMBCC日興証券2.0%、自社自己株0.19%。



Genky DrugStores株式会社 代表取締役社長 藤永賢一

## 株式会社クスリのアオキホールディングス

本店 石川県白山市横江町		代表取締役社長 青木宏憲	
東証1部上場日	2016年11月21日		
	2019年5月	2018年5月	2015年5月
売上高	250,885百万円	221,286百万円	134,994百万円
営業利益	14,147百万円	11,862百万円	7,778百万円
当期純利益	10,648百万円	8,823百万円	5,213百万円
資本金	1,127百万円		
11月20日株価	8,800円		
10月25日時価総額	245,946百万円		
発行済み株式総数	31,524,260株		
1株当たり当期純利益	338円	280円	166円
売上高経常利益率	5.8%	5.7%	5.9%
有利子負債	26,287百万円		
純資産額	54,443百万円	44,310百万円	21,983百万円
1店舗平均売上高	444百万円		
正社員1人当たり売上高	103百万円		
正社員	2,417名		
パート・アルバイト	5,575名		



株式会社クスリのアオキホールディングス 代表取締役社長 青木 宏憲

## 福井県内のドラッグストア市町別 1店舗当たりの人口

	人口(人)	ゲンキー	クスリのアオキ	Vドラッグ	スギ薬局	1店舗当たりの人口
福井県計	782,494	65店舗	47店舗	17店舗	7店舗	5,753人
福井市	263,109	21店舗	16店舗	9店舗	4店舗	5,262人
坂井市	91,638	8店舗	5店舗	—	—	7,049人
越前市	82,754	8店舗	6店舗	2店舗	1店舗	4,867人
鯖江市	69,374	4店舗	4店舗	2店舗	1店舗	6,036人
敦賀市	65,565	3店舗	4店舗	3店舗	1店舗	5,960人
大野市	33,249	4店舗	2店舗	—	—	5,541人
小浜市	29,262	3店舗	2店舗	—	—	5,852人
あわら市	28,190	2店舗	2店舗	—	—	7,047人
勝山市	23,186	2店舗	1店舗	—	—	7,728人
越前町	21,519	2店舗	2店舗	1店舗	—	4,303人
永平寺町	18,542	2店舗	1店舗	—	—	6,180人
若狭町	14,807	1店舗	—	—	—	14,807人
南越前町	10,610	1店舗	1店舗	※マツモトキヨシ 福井市 1店舗	—	5,305人
高浜町	10,429	2店舗	—	坂井市 1店舗 コスモス薬品	—	5,214人
美浜町	9,459	1店舗	1店舗	小浜市 1店舗 を除く。	—	4,729人
おおい町	8,233	1店舗	—	—	—	8,233人
池田町	2,568	1店舗	—	—	—	2,568人
総店舗数		261店舗	565店舗	361店舗	1191店舗	
石川県		20店舗	70店舗	17店舗	1店舗	
岐阜県		115店舗	56店舗	128店舗	52店舗	
愛知県		61店舗	25店舗	138店舗	327店舗	

# 業界トップ10の大手が 相次ぎ福井に参入!



スギ薬局 福井大手店

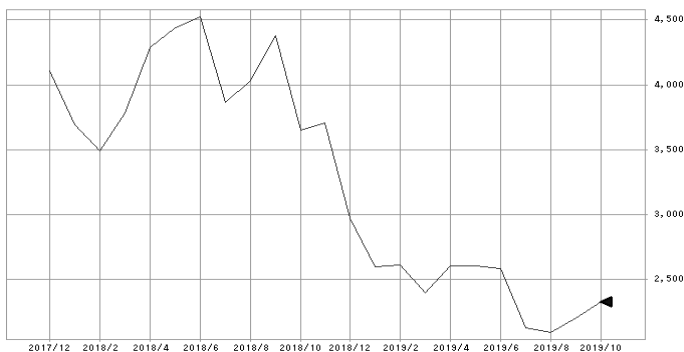


コスモス小浜木崎店

県内17店舗の「V・drug」は、岐阜県多治見市に本店を置く中部薬品が設立より『サンドラッグストア』を屋号として営業してきたが、スーパーマーケットチェーン、パローグループであること、分かりやすく伝えるために全店の屋号を「V・drug」

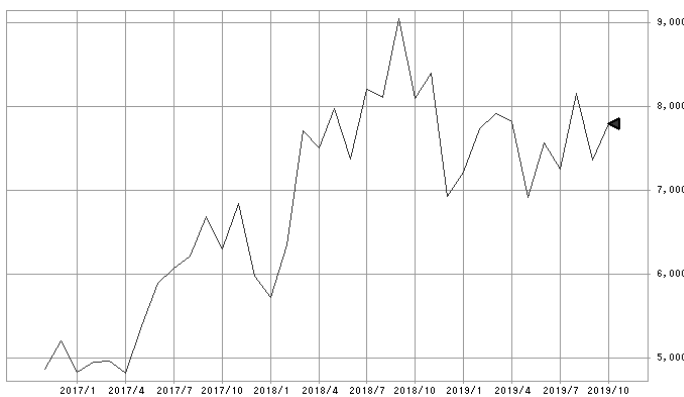
に統一した2006年、福井県に初出店。売上高は2019年3月期1276億円、店舗数は379店。医薬品・健康食品・化粧品・日用品などを主として販売するドラッグストアおよび、処方箋に基づく保険調剤を行う調剤薬局を愛知145

店、岐阜130店、三重14店、静岡13店、石川17店、富山37店、福井17店、滋賀3店、京都3店設ける。  
2018年2月、スギ薬局「福井田原町店」がオープンすると、2年余で県内7店舗に拡大。生鮮食品も扱うが、調剤、美容、ヘルスケアに重きを置き、健康支援で差別化を進め、ゲンキーとは一線を



ゲンキー 2017年12月21日上場よりの株価推移

画す形だ。  
東海を地盤に業界5位、調剤併設のドラッグストアを展開するスギHD株式会社は、愛知県大府市に本店(資本金154億・時価総額3514億)を置き、1191店舗で医薬品と化粧品を中心に連続最高純益を上げ好調、有利子負債は無い。2020年2月予想で売上高5200億円、経



クスリのアオキ 2016年11月21日上場よりの株価推移

常利益290億円を目指す。

昨年6月、コスモス薬品が小浜市にディスカウントドラッグ「コスモス小浜木崎店」をオープンし、2店舗目の「鯖江小倉店」の開店を控える。

福岡市に本社を置く業界3位のコスモス薬品は、店舗数が本年6月末で1001店舗となり、1983年12月の会社設立から36年弱で1000店舗を突破した。連結業績は売上高が前期比9.5%増の611.1億円、営業利益が8.9%増の24.7億円。地盤である九州と中国・四国では自社競合が増えていることから、今後は関東・中部・関西の3大都市圏での出店を強化していく。

同社はローコスト経営による低価格展開で支持を集め、売上高に占める販管費の比率は15%と業界内で非常に低い。食品にも力を入れており、ゲンキーに近い戦略だ。調剤は手掛けていないが、参入時期

を検討している。

一方2005年4月、JR福井駅の新駅舎開業とともにオープンしたプリズム福井に「マツモトキヨシ」が福井県内・北陸地区初の店舗として出店した。業界4位の大手で、駅ナカや商業施設、郊外など出店場所に依じて20〜450

## 今後、1兆円メガ薬局誕生か ゲンキーを追い詰める？

ドラッグストアは7000人商圏でも集客と収益が確保できるため5千人に1店の時代に突入した。本県も「ゲンキー」と「クスリのアオキ」

の2大勢力に対抗するように近年大手ドラッグストアの出店が相次ぎ、わずかに人口78万人の福井を舞台に各社の陣取り合戦、顧客獲得合戦が過熱している。

福井の上場企業「ゲンキー」も他社に負けてはならずと売上げが横ばいの中で新規出店

坪と多彩に店舗展開する機動力が強み。

北陸新幹線金沢開業に伴って福井駅とJR富山駅内に新店したが、敦賀開業となれば各新幹線駅ナカや沿線の商業施設に次々と新規出店も予想され、大手各社の新規出店は止まるところを知らない。

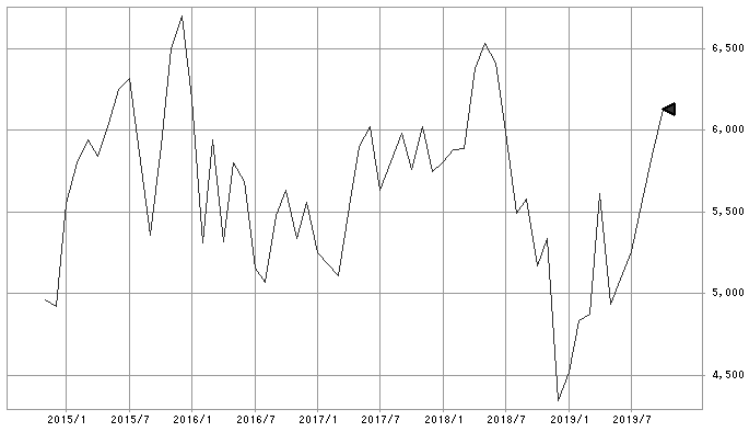
を繰り返し、売上増を目指しているが、過当競争は営業利益率の低下を招きかねない。

ドラッグストア大手のマツモトキヨシHDとココカラファインが経営統合の協議に入り、実現すれば最大のツルハHDを抜いて業界初の「1兆円メガ薬局」が誕生する。マツキヨは業界4位だが、化粧品の上高はライバル他社を大きく引き離し単独1位。ココカラも化粧品の売上高構成比は3割に達し、両者の統

マツキヨ&ココカラ経営統合すると業界随一の化粧品販売力に

	売上高 (億円)	化粧品 売上高 (億円)
マツモトキヨシHD &ココカラファイン	9,764	3,357
1位 ツルハHD	7,824	1,364
マツモトキヨシHD	5,759	2,277
ココカラファイン	4,005	1,080

2018年度実績



スギHD 2000年6月19日上場5年間の株価推移

## 2019年ドラッグストア売上高ランキング

順位	企業名	本社	店舗数	売上高 (百万円)	売上総 利益率	販管 費率	営業 利益率
1	ツルハHD	北海道	2082	782,447	28.6%	23.3%	5.4%
2	ウエルシアHD	東京都	1878	779,148	30.4%	26.7%	3.7%
3	コスモス薬品	福岡県	1001	611,137	19.9%	15.9%	4.1%
4	マツモトキヨシHD	千葉県	1654	554,605	31.2%	24.9%	6.3%
5	スギHD	愛知県	1191	488,464	29.1%	23.8%	5.3%
6	サンドラッグ	東京都	870	411,212	25%	19%	6%
7	ココカラファイン	神奈川県	1322	397,403	27.0%	23.8%	3.2%
8	クリエイト SDHD	神奈川県	807	284,270	27.6%	22.6%	5.0%
9	カワチ薬品	栃木県	334	264,926	21.6%	20.1%	1.5%
10	クスリのアオキHD	石川県	565	250,885	28.6%	23.0%	5.6%

薬キャリ 職場ナビ ドラッグストア売上高ランキング2019年版より

## ツルハホールディングスがドラッグストア業界売上高1位!

健康相談業務や、調剤薬局併設型ドラッグストアでの調剤業務など、地域医療の一翼を担う存在として薬剤師が専門性を発揮する一方で、業界全体としては生鮮食品や一般食品などの売上が大きく伸び、コンビニエンスストアやスーパーのように利用する顧客も年々増加。

合でマツキヨのPBの化粧品  
売上を拡大強化できる。  
一方、超高齢化社会を見据  
え高齢者向けの医療・介護領  
域を強化したドラッグストア  
を指すスギ薬局だけでなく、  
都市部を中心に調剤併設型の  
ドラッグストアが増加中だ。  
値引き競争の激しい食品や日  
用品などに対し、政府が公定  
価格を決める調剤は安定した  
利益を確保できるからだ。  
業界3位のコスモス薬品や  
6位のサンドラッグに代表さ  
れるディスカウント系のドラ  
ッグストアは「食品強化路線」  
を進むなど競合他社も指をく  
わえて見ているだけではない。  
ドラッグストア業界は今後、  
生き残りをかけたM&A(企  
業の合併・買収)が本格始動し、  
1兆円超の5陣営程度に収斂  
され、急速な寡占化が進むと  
言われている。「ゲンキー」も  
資本・業務提携や子会社化、  
さらにM&Aを余儀なくされ  
る可能性は大きい。